

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成22年3月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470103957
法人名	有限会社 もえぎ
事業所名	グループホームもえぎ
所在地	広島市安芸区船越南二丁目20番16号 (電話) 082 - 821 - 2261
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成21年3月25日

## 【情報提供票より】(22年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤 16人, 非常勤 3人, 常勤換算 17.05人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	150,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	3名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.3歳	最低	58歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 あいきクリニック
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームでは、職員の笑顔とホームの愛犬のお出迎えに心が和む。まさに「笑顔と温もりの中で、そして家族として…」の理念が職員全員に自然な形で根付いている。ホーム長の創設時からの「志」=自分自身も家族も含め「このホームに住みたい、住ませたい」と思えるような、住み心地のよい生活環境づくりへの取り組みが随所に見られる。現時点で、入居希望待機者が30余名、これも地域社会からの高い評価の表れでもある。この待機者の解消策として、今夏8月に、すぐ近くに「もえぎ野」の名称で2ユニットのホームの開設が計画されているが、これも拡大路線ではなく、適正規模を基本として「責任あるケア・目の届く範囲における『見えるケア』にこだわる」とこの運営方針を確立している。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回からの継続的な改善課題は見当たらない。このホームでは、日々のケアの気づきの中から改善事項を見出し、即解決する自主的な取り組みの風土が芽生えている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>2Fユニット(ふたば)・3Fユニット(みつば)のユニット名をつけ、各ユニットごとに自己評価の責任者を決め、その結果をホーム長・管理者が集約する形を採っている。自己評価の責任者は年度ごとに担当者を替え、とくに新人職員の新しい目、見方を尊重し、各ユニットごとの特性を育てる取り組みとしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>「自分が認知症になったら～親愛なる子どもたちへ・介護疲れ」など、各会議ごとに身近な悩み事を捉えたテーマのビデオを出席者全員で観賞。ホットな社会問題も討議するユニークな取り組みが見られる。出席者は家族はもちろん、民生委員、近隣のスーパーの店長さんの出席など多方面からの出席を仰いでいる。次回は、現在最大の関心事の防災について消防署から専門の係員を招き深く討議する予定とされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>苦情委員会をホーム内に組織し、迅速に対応する取り組みがあるが、実際には長期の入居者がほとんどで、日々のふれあいを通じて、意見・苦情をくみ取り、不安解消にも努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホーム学区内の中学生3名が3日間職場体験の受け入れ、車椅子の操作、近隣のお店と一緒に買い物、ホーム内の実生活の体験。ホーム長から「認知症サポーター養成講座」のテキストを使用しての講義など、今後の子どもたちの進路選択への貢献。隣接の大世帯のマンションの夏祭りへの参加など、ホーム開設の歴史に裏打ちされた地域連携の歩みが続いている。</p>

## 2. 調査報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に事業所では、各ユニット毎に介護目標を掲げている。介護目標は毎年職員の話し合いで決められ、今年度は、「笑顔を引き出す」「じっくり耳を傾け訴えをくみ取る」である。また、毎年個人の目標を設定し、年度末には達成度の評価を行っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回行われる全体会議で、理念や介護目標の達成について話し合いを行っている。また、月に1回行われる職員の自主的な集まりでも、理念・目標の実践について、話し合いを行っているが、今後はもっと活発な意見が出るようにしたいと考えている。また、職員が気付いたことを書き留め職員間で共有するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の町内会からのお誘いを受け、入居者は夏祭り・餅つき大会・盆踊りなどの行事に参加し、楽しんでいる。また、ホームの行事にも近所の方を招待し交流を深めている。近所の方は、ホームの入居者を温かく見守り必要な時には協力するような環境ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各ユニットで担当を決め全員で話し合いをし作成されている。外部評価の結果は職員に伝えられ、改善に向けて話し合いが行われている。昨年度は、取り組み事項は提示されなかったが、外部評価員との意見交換から「入居者の小遣い管理の改善」「家族会の設立」等が実施されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行われる会議では、状況報告以外に、参加者に認知症介護に対する理解を深めて頂くようにビデオの鑑賞をし、意見交換をするなど、工夫されている。推進委員会の報告は、職員と家族にも毎回報告されている。外部評価の結果もプロジェクターを使用して説明し、相互理解に努めている。		会議の目的の一つである「地域との連携」は、地域住民が参加されない時もあり、地域住民との意見交換がもう少し必要ではないかと思われる。最近では、近所のスーパー店長が会議に参加されているようであるが、より多職種の方が出席し活発な意見交換がなされるように検討して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の職員3名が認知症アドバイザーの資格を有し、「認知症サポーター養成講座」の講師をしたり、市や安芸区の要請で講演会で話をするなど、活発に協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状況や暮らしぶりについては、毎月、担当者が写真を添えた手紙を家族に送り、報告している。ホームの行事等については2カ月に1回、ホーム便りを郵送している。おこづかいについても、毎月領収書を添えて報告し、年に2回家族に残高の確認をして頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年家族会が創設され、家族会総会で家族の意見を聞いたり、行事や面会に来られた際には、積極的に家族の意見や要望を聞くようにしている。この1年間に家族などから出された意見や苦情は、「苦情報告書」に内容・対応・再発防止の取り組みが記載されており、職員間で情報を共有する取り組みが行われている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と馴染みの関係を保つために、職員が離職しないよう管理者は職員との日々の会話を大事にし、異動が少なくなるように努力している。職員異動の際には、入居者が動揺しないように職員が協力して精神的な介護支援を行うようにしている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、毎月の全体会議ではテーマを決め、研修・カンファレンスを行っている。テーマによっては外部から講師を招へいしている。またホームの方針として、職員の希望に応じた外部研修を積極的に受けさせることを掲げ、毎年多くの職員が外部研修に参加し、研修の内容を全体会議等で伝達講習をしている		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地域密着サービス事業者交流会」に定期的に参加し、交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同じ法人で運営するデイサービス・小規模多機能からの入居者も交え、合同の行事に参加してもらい交流を深めることで馴染みの関係を作るように努力している。入居前には、事前訪問や見学を通して、ホームに馴染むよう工夫されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>法人の理念「笑顔と温もりの中で、そして家族として…」のように、家族として温かく生活するように支援している。愛犬(アニマルセラピーの試みとして)もホームの一員として、入居者と和やかに過ごしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話から入居者の思いや本人のこだわりや希望を把握するように努めている。自分の意志を表現できない方でも、その人の視点に立って、思いを把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に1回行われる全体会議の後や、茶話会の際に、職員全員で、入居者の状況や支援について話し合いを行い支援の方向性を決め、計画作成者がケアプランを作成。また、モニタリングも職員全員で行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員全員で行われるカンファレンスで、状況の変化により介護計画を変更する必要があるかを検討している。また、家族の意向や希望は、担当職員だけでなく職員全員がカンファレンスで報告しケアプランの見直しに役立っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物内にデイサービスや小規模多機能の事業所がある利点を活かし、合同で行事を行い交流を深めている。通院の際には、事業所の車両を使い、看護師が付き添い対応している。また、入院時には、職員が洗濯物を取りに行くなどきめ細かい支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回協力医の定期的な往診がある。また本人・家族の希望により馴染みの医師(主治医)による往診も行われている。協力病院以外の通院には、事業所の車で通院支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した際の対応についての指針を説明している。重度化した場合には、本人・家族の意向を確認し医師と相談し対応している。また、検討内容については記録に残し職員が情報を共有できるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者ひとり一人の誇りを尊重しプライバシーを損ねないように対応するように心がけている。とくに、本人が不快と感じる話し方や言葉使いをしないように指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムに配慮し、レクリエーションについても本人が希望しないことを無理強いしないようにしている。入居者の気持ちを考えずに、職員が対応することがないように、また意志疎通が困難な方でも表情で意志をくみ取るよう、より一層努力していくと考えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食については、献立が決まっているが、朝食・昼食については、入居者の希望を聞き献立に入れるようにしている。職員と入居者が一緒に、食事を楽しみやすい雰囲気の中で楽しめるように努めている。時には、外食に行くこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者ひとり一人の体調に合わせて、入浴が楽しめるように努力している。四季折々の慣わしに沿って、ゆず湯・菖蒲湯など季節感を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を参考に、食器洗い・洗濯物干し・掃除の手伝いをしてもらっている。リハビリ体操や口腔体操のリーダーをして頂いている。2Fテラスではプランターに花や野菜を栽培しており、入居者と一緒に収穫したり、年末には門松と一緒に造り新年を迎える準備としている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物は職員と入居者が一緒に出かけている。加齢に伴い介護度の高い入居者も多くなり、外出が以前より困難になってきているが、なるべく新鮮な外気に触れるように外出の支援をしていきたいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間のみ玄関の施錠をしているが、日中は鍵をかけられておらず、自由に出入りできる。職員はドアに取り付けられたチャイムの音で、入居者の見守り・安全を確認している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今春には、スプリンクラーの設置工事の予定。また、年に2回の避難訓練では、同じ建物内の事業所も参加し合同訓練を行っている。同時に、消防署からの火災時における避難経路についてのアドバイスも受けている。		最近、介護施設の火災が何件も報告されており、災害対策については万全を期してほしい。職員は火災や災害について危機感を持って、避難訓練に参加し、消防署のアドバイスによる避難経路の確保の訓練を十分に行い、いざという時に対応できるよう、なお一層の意識を高めて頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、食事量と水分摂取量のチェックを行っている。</p> <p>毎週体重測定を行い、栄養摂取状況を確認している。</p>		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の掃除が行き届き、清潔が保持されている。</p> <p>また、季節の花々や入居者が作成した季節感ある創作画が飾られている。愛犬が入居者のひざに抱かれ心なませている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使い慣れた家具を持ち込み、それぞれが暮らしやすい環境を整えている。</p>		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム もえぎ(みつばユニット)

評価年月日 2009年12月25日

記入年月日 2010年 1月10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 福岡真由美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



(様式1)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「笑顔と温もりの中で、そして家族として・・・」という法人の理念があり、その理念を基に事業所の介護目標を掲げ、そして個人の目標をつくりあげている。年度末に反省を行い次年度につなげている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月に1回全体会議や茶話会を行い、日々理念に近づけるように努めていますが、毎日のミーティングは出来ていない。気づいた事を記入するノートを活用して職員間で統一を図っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>日々の入居者の様子をご家族に知ってもらう為に、「もえぎだより」を制作している。二ヶ月に一回行う、運営推進会議でも、二ヶ月間の活動内容を報告している。そのほか、地域ボランティアによる行事も行っている。今年度、家族会を立ち上げ、ご家族に理解して頂くよう努めている。</p>	<p>平成21年6月27日家族会発足に伴い情報交換、勉強会などにより密接な関係作りに努めた。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方達と、挨拶をしたり・玄関に季節ごとの飾り付けをし、親しみやすいように心掛けている。また、地域行事への参加・お店の人との交流、意見箱の設置なども、取組んでいる。</p>	<p>継続して買物など外出の際、あいさつを行い気軽に立ち寄って頂けるように努める。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎年、お祭りや地域の行事などに参加し、地元の人々と交流する事に努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>月一回ユニット内で話し合いノートに実践する内容を書き全員が共通の理解をもつようにしている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や契約解除の際、相手の立場に立って、不安や疑問等を表せるような働きかけと説明を行い、納得された上で、手続きを始めていく等、個別の配慮や取り組みを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。また、不満・苦情など気軽に話して頂けるようコミュニケーションに努めている。意見箱も設けている。苦情が出た場合は会議で話をしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一度写真と、暮らしぶりや健康状態についての手紙を添えて送っている。また、面会時にも日々の生活等について話している。年に6回ホーム便りを作成し送っている。金銭管理については、毎月おこづかい表に領収書を添えて送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会が出来たことにより家族と職員がより近づくことが出来、意見や要望を表せる機会が増えていく。苦情があれば早急に職員に伝達をし改善を図っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回会議を開き、茶話会などで管理者に話をし、意見交換をしている。また、日頃から不満、苦情など気軽に話しが出来るように職員とコミュニケーションを図っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>出来る限り利用状況に合わせた勤務配置を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員体制を固定し、なじみの関係が、できるようにしている。移動や離職などがあった場合、その他のスタッフが、フォローしている。離職を必要最小限に抑えるよう、日々のコミュニケーションを大事にしている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。また、職員の興味がある研修を聞き、希望に添った研修が受けられるように努めている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業者交流会を、定期的で開催し参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減に向け、定期的に飲み会や茶話会を開くなど、ストレス発散の場を設けている。また、日々のコミュニケーションを大事にしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。その際受けたい研修を聞き希望に添った研修に参加出来るようにしている。また、日々のコミュニケーションを大事にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などもお話ししながら、受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などをしながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事業所として出来る限りの対応に努め、必要に応じてサービス利用の調整を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービス、小規模からの継続入居が多い為、デイサービスや小規模との交流を図り、職員や環境に馴染んで頂くように取り組んでいる。また、事前訪問や見学を通して、ご本人が馴染めるような機会を設けている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に食事をしたり、行事を楽しんだり、理念にもあるよう、家族としての気持ちをもって接し、共に過ごすことで、喜怒哀楽を共感できるよう努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂くことを、積極的にお願いをし、家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。家族会が出来て合同で行事を行う事により喜怒哀楽を共にしている。		毎月の利用料支払い時を利用して少しの時間で良いので面会をして帰って頂くようご家族に積極的に働きかける。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族関係をよく理解し、家族会との合同行事を通してスキンシップ、コミュニケーションを図り、よい関係になるよう努めている。		面会時には散歩等、一緒に過ごす時間を持てる様に声かけ支援をする。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人からの手紙や電話のやり取りを大切にしている。面会は自由に来て頂いている。また、今まで通っていた美容院へも出かけ、今までの関係が切れないように支援している。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士、話ができ関わりを持てるように、職員が中に入り支援をしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望・意向を大切にし、把握が困難な場合は、本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面接時に本人の生活歴の把握に努める。また、日常生活の会話の中からも生活歴や馴染みの暮らし方などのお話を聞かせて頂いている。</p>	<p>大まかな生活歴の把握にとどまっている。ご家族が面会に来られた時に、もう少し詳しく生活歴を聞く。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見しケアに活かせるように努めている。</p>	<p>日々変化する状況を正確に把握し個別の対応に努める。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回及び、支・要介護更新時に見直しを行うと共に、状態変化に応じて介護計画の見直しを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙があり、入居者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に向かい合い、その時々々に必要な支援を、出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶会や音楽会、書道クラブ等を通して地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験や、中学生の大正琴や日舞の発表など積極的に受け入れ、相互に協力をしている		
41	他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は活用していないが、必要に応じて他のサービスを活用する用意はある。		
42	地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターと、連携を図りながら認知症の人を地域で支えるように努めている。また運営推進会議のメンバーになっていただき、地域の現状やホームへの意見、要望などアドバイスをしてもらっている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医は認知症専門医であり、いつでも相談や治療が受けられるよう支援をしている。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内に看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認し、ケア関係者、かかりつけ医を交え、対応方針を話し合い共有化を図っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を安心して暮らせるように、職員全体で対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを率直に話し合い同じ思いで、家族やかかりつけ医とも連携を取りながら支援に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みを聞き、出来るだけメニューに取り入れるように心がけている。調理や片付けなど職員と一緒にやっている。また、食事と一緒に、声かけをしながら楽しい雰囲気になるよう心がけている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や飲み物など、できるだけ本人の好みに合う物を出すよう心掛けている。特にお誕生日には好きなメニューにしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便・排尿チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、可能な限りトイレでの排泄に向けた、支援をおこなっている		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に合わせて無理強いせず、入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、ベッドで休んだり、フロアでも休めるようにソファを置き、何処でも休んで頂けるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で役割を持ってもらい散歩や行事、買い物等など気晴らしが出来るよう支援している。		日光浴、散歩など取組んでいるがもっと多く出来るよう支援する。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人に合わせて、自分でお金を所持して頂いたり、職員と共に買物に出かけてお金を払う機会を作っている。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を聞き集団での散歩や、個別に外出している。		買物や散歩などより多く出来るように努める。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞き日帰り旅行に出かけている。また、個別に家族の人と一緒に出来る限り、食事等へ出かけるように支援している。		家族会に働きかけて、個別外出や外出行事を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙も自由にやり取りができるように支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねられるよう出入りは自由になっている。訪問されたときには、居室にて過ごされ、職員がお茶を出し、ゆっくり過ごしていただけるよう努力している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で、職員の意識統一をしている。また、研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が意識してケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上、玄関を施錠しており、日中はドアチャームを取り付け自由に出入りが出来るようにしている。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の動きを見守りやすい位置に常におり、サインを察知するように努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミなどを使用した後は直ぐに所定の位置に片付け、本数を確認している。薬などは、事務所の鍵のかかる書棚で保管をし、日常使用する洗剤などは職員の目が届く場所に置いている。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、勉強会などは行っている。火災訓練などは年に二回実施している。ヒヤリハット報告書を記録し、大きな事故にならないよう努めている。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を行い、緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。		勉強会を定期的に行い実際の場面でいかせるようにする。年に一回は救急救命の研修を行う。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>考えられるリスクについては、早目に家族と話し合い納得と理解を得て自由に生活して頂くように支援している。また、状況変化に応じて繰り返し話し合いを行っている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>常に入居者の顔色や様子に注意し少しでも変化がみられるとバイタルC Kし必要に応じて主治医に連絡している</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全入居者の薬の内容や副作用の説明が書いてあるものを全職員がすぐ見れる所に置いて、把握しているが、新しい薬等把握できてないことがある。</p>	<p>新しい薬等、職員が把握できるように書込み、情報を把握できるようにする。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘気味の方には自然排便が出来るように水分摂取に気をつけ、腹部をマッサージする等し対応している。また、繊維質のものを食事にとり入れている。全体会議においても便秘に対する原因や及ぼす影響等について話し合いを行っている。食後トイレ誘導を行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声かけを行い困難な場合は、状況に合わせて支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。また、体調や習慣によっても調理方法、盛り付けを工夫している。毎週体重測定を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルがあり、予防接種や外出後、食事前のうがい、手洗いを励行している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材等はその日に買って来ており、新鮮なものを選んで買物をしている。ふきん・まな板等はハイター消毒や煮沸消毒を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木鉢や季節に応じた飾りつけなどをする事で、利用者や家族、近隣の人などが、親しみやすく、安心して出入りが出来るようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができる。		一部の入居者様だけではなく、皆がソファでくつろげるよう配置を考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバム等持ち込んでいただき自分らしく過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、一人ひとりにあった温度調節を行っている。また、洗面台やトイレ等汚れたら随時掃除を行って、気になる臭いが無いように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、フロア全体に手すりが取り付けられている。入浴時には介護用具を利用し、できる限り自分の力でできるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人で出来ることは時間がかかっても行えるよう見守りを行っているが、介助してしまうこともある。プライドの高い方に対し出来ていないことでも手助けできずにいる。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して、季節の花を一緒に植えたり、野菜を育てたりしている。季節によってはそうめん流しをしたり、イルミネーションを飾っている。また、日光浴やおやつの時間に外に出ている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム もえぎ（ふたばユニット）

評価年月日 2009年12月25日

記入年月日 2010年 1月10日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 賀来興治

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室

(様式1)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「笑顔と温もりの中で、そして家族として・・・」という法人の理念があり、その理念を基に事業所の介護目標を掲げ、そして個人の目標をつくりあげている。年度末に反省を行い次年度につなげている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月に1回全体会議や茶話会を行い、日々理念に近づけるように努めていますが、毎日のミーティングは出来ていない。気づいた事を記入するノートを活用して職員間で統一を図っている。</p>	<p>毎月のフロア会議で理念の実践に向けて各自、工夫していることや心がけていることを話し合う。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>日々の入居者の様子をご家族に知ってもらう為に、「もえぎだより」を制作している。二ヶ月に一回行う、運営推進会議でも、二ヶ月間の活動内容を報告している。そのほか、地域ボランティアによる行事も行っている。今年度、家族会を立ち上げ、ご家族に理解して頂くよう努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣近所の方達と、挨拶をしたり・玄関に季節ごとの飾り付けをし、親しみやすいように心掛けている。また、地域行事への参加・お店の人との交流、意見箱の設置なども、取組んでいる。</p>	<p>継続して声かけ等行い、気軽に立ち寄って頂けるようにする。出勤、退社時に会う近所の方に挨拶をする。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎年、お祭りや地域の行事などに参加し、地元の人々と交流する事に努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立てることはないか検討している。(年に2回)		
<b>3. 理念を实践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が、評価の意義を職員にわかりやすく伝え評価の一連の過程を通して質の向上に努めている。		月一回ユニット内で話し合いノートに実践する内容を書き全員が共通の理解をもつようにしている。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、状況報告をし、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症サポーター養成講座や事業所の見学会等を通して担当者と現場の実情等を、積極的に伝える機会をつくっている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	本年度は、勉強会に参加していない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い、防止に努めている。利用者については、入浴時に皮膚観察をし、異変が無いが注意を払っている。会議では虐待防止について研修を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>面接時、家族の不安や、疑問を聞き、契約時には、契約内容の説明をしっかりと行っており、納得して頂いてから、契約してもらっている。また事前に見学や利用体験をしてもらったからの利用の方もいる。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。また、不満・苦情など気軽に話して頂けるようコミュニケーションに努めている。意見箱も設けている。苦情が出た場合は会議で話をしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>月に一度写真と、暮らしぶりや健康状態についての手紙を添えて送っている。また、面会時にも日々の生活等について話している。年に6回ホーム便りを作成し送っている。金銭管理については、毎月おこづかい表に領収書を添えて送付している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会が出来たことにより家族と職員がより近づくことが出来、意見や要望を表せる機会が増えている。苦情があれば早急に職員に伝達をし改善を図っている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回会議を開き、茶話会などで管理者に話をし、意見交換をしている。また、日頃から不満、苦情など気軽に話しが出来るように職員とコミュニケーションを図っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>出来る限り利用状況に合わせた勤務配置を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員体制を固定し、なじみの関係が、できるようにしている。移動や離職などがあった場合、その他のスタッフが、フォローしている。離職を必要最小限に抑えるよう、日々のコミュニケーションを大事にしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。また、職員の興味がある研修を聞き、希望に添った研修が受けられるように努めている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス事業者交流会を、定期的で開催し参加している。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減に向け、定期的に飲み会や茶話会を開くなど、ストレス発散の場を設けている。また、日々のコミュニケーションを大事にしている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。その際受けた研修を聞き希望に添った研修に参加出来るようにしている。また、日々のコミュニケーションを大事にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などもお話ししながら、受けとめる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを聞きながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービス、小規模からの継続入居が多い為、デイサービスや小規模との交流を図り、職員や環境に馴染んで頂くように取り組んでいる。また、事前訪問や見学を通して、ご本人が馴染めるような機会を設けている。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に食事をしたり、行事を楽しんだり、理念にもあるよう、家族としての気持ちをもって接し、共に過ごすことで、喜怒哀楽を共感できるよう努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂くことを、積極的にお願いをし、家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。家族会が出来て合同で行事を行う事により喜怒哀楽を共にしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族関係をよく理解し、家族会との合同行事を通してスキンシップ、コミュニケーションを図り、よい関係になるよう努めている。		ご家族の行事への参加は増えたが、参加されるご家族は決まっているので、もっと沢山のご家族に参加して頂けるように声を掛けていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人からの手紙や、電話のやり取りを大切にしている。面会は自由に来て頂いている。また、今まで通っていた美容院へも出かけ、今までの関係が切れないように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士、話ができ関わりを持てるように、職員が中に入り支援をしている。		相性の悪い入居者同士を離すのではなくスタッフが間に入り少しでも和やかに共有の時間を増やしていく。
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面接時に本人の生活歴の把握に努める。また、日常生活の会話の中からも生活歴や馴染みの暮らし方などのお話を聞かせて頂いている。</p>	<p>大まかな生活歴の把握にとどまっている。ご家族が面会に来られた時に、もう少し詳しく生活歴を聞く。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、本人のできる力、わかる力を暮らしの中で発見しケアに活かせるように努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回及び、支・要介護更新時に見直しを行うと共に、状態変化に応じて介護計画の見直しを行っている。</p>	



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録用紙があり、入居者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お茶会や音楽会、書道クラブ等を通して地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験や、中学生の大正琴や日舞の発表など積極的に受け入れ、相互に協力をしている		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は活用していないが、必要に応じて他のサービスを活用する用意はある。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターと、連携を図りながら認知症の人を地域で支えるように努めている。また運営推進会議のメンバーになっていただき、地域の現状やホームへの意見、要望などアドバイスをしてもらっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回協力医の定期的往診がある。本人、家族の希望があれば、馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医は認知症専門医であり、いつでも相談や治療が受けられるように支援をしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交え対応方針を話し合い共有化を図っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期を安心して暮らせるように職員全体で、対応が可能なこと、困難なこと、不安なことを率直に話し合い、同じ思いで家族やかかりつけ医とも連携を取りながら支援に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>意見を言える入居者様は聴き易いが、声に出せない入居者様は表情や体調を職員間で話し合い納得した生活を送ってもらえるように努める。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>ご自分の意見をはっきり言える方の希望はすぐに実行しているが、意思表示の難しい方に対しても、ご本人の状態や表情などを読み取りできるだけ希望に添えるように努める。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>献立を考えて頂いたり、スタッフと協力しながら料理が出来上がる達成感を感じて頂きたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		<p>失禁が多い入居者様の清拭の声かけは無理強いせず気持ち良く過ごせる様に声かけを行う。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>夜間など本人が希望される入浴時間に入れるよう心がけたいが、現状では難しい面がある。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>散歩、買い物などの外出の機会を多く取り入れるように努める。一人ひとりの楽しみごとを増やしていくよう会話の中から聴きとり提案をする。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度の認知症の方が多く、金銭管理や支払い等は、職員が代行することが多いが、出来る方は自分で支払いをしてもらっている。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩等一緒に出掛けるように心がけている。		
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	近所の祭りや行事などで、家族の方と出掛けられるよう支援している。個別外出も行っている。		家族により偏りが大きい。手紙や面会時において試みる。行ってみたい所を聴き希望の個別外出の機会を増やす。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙も自由にやり取りができるように支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪ねられるよう出入りは自由になっている。訪問されたときには、居室にて過ごされ、職員がお茶を出し、ゆっくり過ごしていただけるよう努力している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で職員の意識統一をしている。また、研修にも参加し日々拘束は行わない事を職員全体が認識してケアにあたっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯上、玄関を施錠しており、日中はドアチャイムを取り付け自由に出入りが出来るようにしている。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の動きを見守りやすい位置に常におり、サインを察知するように努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミなどを使用した後は直ぐに所定の位置に片付け、本数を確認している。葉などは、事務所の鍵のかかる書棚で保管をし、日常使用する洗剤などは職員の目が届く場所に置いている。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、勉強会などは行っている。火災訓練などは年に二回実施している。ヒヤリハット報告書を記録し、大きな事故にならないよう努めている。		毎月の全体会議において勉強会を行う。小さな事もヒヤリハット報告書や連絡ノートに書き全員が目を通しフロア会議でも確認する。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を行い、緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。		6ヶ月に一回は実施するよう検討する。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	考えられるリスクについては、早目に家族と話し合い納得と理解を得て自由に生活して頂くように支援している。また、状況変化に応じて繰り返し話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの顔色や様子に注意し、少しでも変化があればバイタルチェックを行い、看護師・主治医に相談している。記録としてケースに残しているため情報は共有できている。		管理者からの指示は必ず、ケース・連絡ノートに記載する。
74 服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの個人ケースに薬の内容や副作用の説明が書いてある物を閉じている。また、入居者全員の薬の説明をファイルして、書棚に保管し、すぐに確認出来るようにしている。新しい薬等把握できていないこともある。		新しい薬等、職員が把握出来るようにノートに書き、情報を共有出来るようにする。
75 便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方には自然排便が出来るようにきな粉牛乳等飲み物の工夫や、腹部をマッサージする等し対応している。水分を多く取るように心がけている。繊維質のものを食事にとり入れている。全体会議においても便秘に対する原因や及ぼす影響等について話し合いを行っている。食後トイレ誘導を行っている。		
76 口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行っている。困難な方には状態に合わせて職員が介助している。		口腔ケアの声かけをしても、されない方については声かけを色々工夫してみる。
77 栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。また、体調や習慣によっても調理方法、盛り付けを工夫している。毎週体重測定を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルがあり、予防接種や外出後、食事前のうがい、手洗いを励行している。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材等はその日に買って来ており、新鮮なものを選んで買物をしている。ふきん・まな板等はハイター消毒や煮沸消毒を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木鉢や季節に応じた飾りつけなどをする事で、利用者や家族、近隣の人などが、親しみやすく、安心して出入りが出来るようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。		使用していない車椅子や介護用品を納めるようにし空間を広く取り安全に過ごせるようにする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができる。		一部の入居者様だけではなく、皆がソファでくつろげるよう配置を考える。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバム 等持ち込んでいただき自分らしく過ごせるよう にしている。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、一人ひとりにあった温度調 節を行っている。また、洗面台やトイレ等汚れた ら随時掃除を行って、気になる臭いが無いよう に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、フロア 全体に手すりが取り付けられている。入浴時には介護 用具を利用し、できる限り自分の力でできるよ うにしている。		手すりを利用する為、近くにある物を整理し必要 ない物は片づける。
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人で出来ることは時間がかかっても行えるよ うに見守りを行っているが、介助してしまうこと もある。プライドの高い方に対し出来ていないこ とも手助けできずにいる。		入居者一人ひとりの出来る力を把握して出来る事 と出来ない事を見極めてケアを行う。出来ないこ とを毎日の声かけや対応で手助けし自立して生活 できるようにする。
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダを利用して、季節の花を一緒に植え たり、野菜を育てたりしている。季節によってはそ つめん流しをしたり、イルミネーションを飾って いる。また、日光浴やおやつ時間に外に出ている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )